

卒業式ご報告

さる平成 26 年 3 月 29 日に、西名古屋支部・東名古屋支部の卒業式がおこなわれました。ここで、どのようなものだったか少しご報告させていただきます。

ご存知の方が大半かと思いますが、才能教育研究会の特徴として卒業制度があります。前期初等科・初等科・前期中等科・・・研究科と段階を設けて、一つの明確な目標を持ち、その目標に向かって一生懸命に学び努力することによって目標を達成する喜びを知り自信を持てるようになることがねらいです。卒業式は、子ども達の成長を一緒にお祝いし、この成果を発表する場でもあります。

東名古屋支部では、ウィルあいちウィルホールにて卒業式を行いました。はじめに、壇上にて卒業生一人一人が担当の先生から卒業証書をいただきます（卒業生延べ 133 人）。そして、実行委員長の先生よりお祝いの言葉をいただき、卒業生代表と保護者代表よりお礼のことはを發表いただく（下記に紹介・・・とてもすばらしいご挨拶なのです）。その後は祝賀演奏会です。バイオリン科・チェロ科の全卒業課程曲を演奏できる生徒全員で演奏いたします。才能教育課程卒業生から成る弦楽団の伴奏で演奏されたモーツァルト作曲バイオリン協奏曲第 4 番ニ長調の第 1 楽章・ビバルディ作曲チェロソナタホ短調第 1・2 楽章がすばらしいのはもちろんですが、全員でひいたキラキラ星・その他の曲も生徒一人一人の一生懸命な演奏が相互に作用し一体感のあるあたたかい、そして迫力ある演奏会となりました。

西名古屋支部は、熱田文化小劇場にて卒業式とお祝いのスプリングコンサートを開催しました（卒業生延べ 69 人）。バイオリンとチェロの才能教育課程卒業生は、弦楽オーケストラをバックに素敵な演奏を披露してくれました（モーツァルト作曲バイオリン協奏曲第 4 番ニ長調第 1 楽章・ボッケリーニ作曲チェロ協奏曲変ロ長調第 1 楽章）。今年から上級生の合奏も加わり、年々すばらしい卒業式になってきています。



西名古屋支部卒業式

お祝いのことば

鈴木佳世子先生

卒業生の皆さん、おめでとうございます。保護者の皆様、心から祝いを申し上げます。

前期初等科の卒業生の皆さんは緊張しながらも、楽しく初めての録音を経験したことと思います。才能教育課程の皆さん、厳しいお稽古を重ねての卒業、素晴らしい事です。卒業する度、ひとつの目標を達成します。そしてまた次の目標に向かって進んで下さい。

皆さんが頑張ってきたのは自分の努力と、ご家庭の協力があつたからです。毎日のお稽古を一緒にして下さる、見守って下さる…。今日は卒業を祝い、まわりの人に感謝する日です。

鈴木鎮一先生がおっしゃった言葉を、お祝いとして贈ります。

「皆さん、おめでとうございます。毎日よくおけいこをして送って下さった立派な演奏を、全部聴きました。とてもよく勉強して、しっかりと弾いていて、嬉しく思いました。音楽で人間を立派に育てること。この大事なことを、これからもしっかりとやって下さい。倍お稽古したら能力も倍になる。しっかりと勉強して立派になって下さい。結局やっただけ育つ。少しやれば少し育つ。沢山やれば沢山育つ。こういうことが、はっきりしています。どうぞ音楽で立派な人間になるおけいこ、これをしっかりやっていただく様、お願いします。」

本日は、ご卒業おめでとうございます。

お礼のことば

卒業生代表

私は、兄がバイオリンを始めたきっかけで、バイオリンを始めました。バイオリンの音色が好きで始めたはずだったのに、レッスンはなかなか進むことも出来ず、納得いく音色も出すことが出来ませんでした。なげやりになった時期もありました。そんな私を見捨てることなく、いつも変わらず温かくご指導して下さった木曾原先生、今まで本当にありがとうございました。

また、弦楽合奏団もくりんに参加する機会を与えて下さり、ありがとうございました。そのおかげで、多くのすばらしい仲間と知り合うことができました。もくりんとして参加した夏期学校で弾いたアイネクライネ、世界大会で弾いた剣の舞、どれも心の底から弦楽の楽しさを感じることができました。また、シアトルの夏期学校に参加することができ、その時はモーツァルトの4番1楽章のレッスンを受けましたが、曲の解釈の仕方、音の違いなどに直接触れて改めて音楽のおもしろさを感じることができました。嫌々弾いていた小さい頃とは違い、今は曲を感じながら弾くことができるようになりました。もくりんで出会った、たくさんの素質あふれる仲間や、熱く厳しくご指導していただいたもくりんの先生方の影響もあります。これからも一つ一つの曲に丁寧に向きあい、もっとすばらしい音色が出せるように頑張っていきたいとおもいます。

今回、才能教育課程を無事に卒業することができたのは、たくさんの仲間、家族、そしてこんな私を根気強くご指導して下さった木曾原先生のおかげです。本当にありがとうございました。そしてこれからも、変わらぬご指導よろしくお願いします。

お礼のことば

卒業生保護者代表

桜咲く春の良き日に、この度皆様と共に才能教育課程卒業を迎えられましたことを、大変嬉しく思っております。

私たち親子が才能教育と出会ったのは、息子が三歳の時でした。予定より一か月近く早く生まれ、小さく病気がちだった息子に、私の母が「何か自信につながることもあるといい」と勧めてくれたのが、才能教育のバイオリンでした。教室の見学に伺い、鈴木佳世子先生の優しい眼差しと、目を輝かせてレッスンを見学する息子の姿に背中を押され、お世話になる決心をしました。



その時から、不器用で頑固な息子との戦いが始まったのです。何をしても人一倍時間がかかり、私はレッスンで先生がおっしゃったことを、一週間でできるようにすることに一生懸命になり、一人で空回りしていたこともありました。そして、上手いかず息子に辛い思いをさせてしまったこともあったと思います。そんな息子もモーツァルトを弾くようになりました。録音を控えた頃、中学生になり、勉強や行事に追われ、今後のことが心配と、私が先生に漏らしてしまったことがありました。先生はそんな私に、次のようなメールをくださいました。「モーツァルトを弾くようになって、随分成長したと思います。以前は文句を言いながらお母さんの言うことを最後には聞いていたけれど、今は自分がしっかりあって自立してきていると思います。言われたことを考えずにやるより、時間がかかっても、自分で探りながらやり遂げることができる人になって欲しいので、成長を嬉しく見えています。」このようなお言葉をいただき、親離れ、子離れの時期を迎えた私の思いと重なるところがあり、本当に嬉しく思い、感謝すると同時に安心したのを覚えています。それから自分なりに頑張り、録音の時に汗を流しながら必死に弾く息子の姿を見て感激し、今では私が息子に成長させてもらっているような感じがしました。

私たちは十年の間、バイオリンを通して様々な経験をさせていただきました。今振り返ると、佳世子先生をはじめたくさんの先生方、一緒に学ぶ友達、そしてそのお母様方との出会いとお力が、私たちをここまで導いてくださったと思っています。

今日は卒業の喜びと共に、先生方や皆様に、改めて感謝する日でもあると思っています。本当にありがとうございました。そして、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

東名古屋支部卒業式

祝賀演奏会を終えて

長谷部直子先生

東名古屋支部では、支部の演奏会も兼ねて卒業曲を全員で立派にしましょうという中身で開催しています(卒業生は前列で、カデンツァは卒業生全員で弾きますが)。170名程の生徒が出演するので広い会場という事で今年もウィルあいちでしたが、日程が西名古屋支部と重なってしまい、兄弟会員の方には大変辛いことになってしまったこと、誠に申し訳ありませんでした。

式のお祝いの言葉は、鈴木先生がお元気だった時の卒業テープに入れて下さった感想とお願いのお話を聞きました。

～大切なお願い～

「お稽古は宿題の曲だけでなく復習曲を2・3曲テープに合わせたり聞いてお稽古すること、宿題の曲だけしていたら能力が育つ時がないから嫌になってしまいます。」・・・スズキ・メソードの原点・・・「それからね、お稽古しないでいい日があります。それは朝から晩まで何も食べない日！朝ごはんを食べたらよろしくお願いします。」・・・努力出来る人に育つところ・・・

鈴木先生からのお願いです。もう一度ここに書かせてもらいました。よろしくお願いします。

演奏も各曲担当の先生方がよく研究して下さったご指導のおかげで、多くないリハーサル時間にも関わらず立派でした。毎年違う先生から受けられるリハーサルの場は大きな支部の利点でもありますね。東海グランドコンサートに繋がるといいなと思いました。

毎年ながらスタッフのお母様を中心に先輩お母様方の縁の下の働きに心から感謝を捧げます。この親の働きが子どもに伝わって緊張感ある演奏会になるのでしょうし、みんなで作り上げているこの姿を子どもは勿論、後輩の親も環境として受け取って育っていくでしょう。そして何より鈴木先生に喜んでいただける支部の姿ではないかと思いました。

皆様のご協力が無事終了できましたこと、有難く感謝申し上げます。

お礼のことば

卒業生代表

寒い日々が過ぎ去って暖かい春の日差しを感じるようになった春のこの日に、このような立派な卒業式を開いて下さったことに心から感謝します。才能教育課程を卒業して、今ここに立っているということが私にはまだ信じられません。

モーツァルトを録音するというのは、私にとって幼い頃からの夢のまた夢のようなものでした。不器用で不真面目な私は、同時にバイオリンを習い始め



た双子の妹と当然のように差がつかしました。一曲一曲完成するのに彼女よりもずっと苦労していた私は、彼女がモーツァルトを弾くのに苦戦しているのを見て、自分には一生無理なんじゃないかと思ったこともあります。双子というのは不思議でまわりが比べてなくても、自分のなかで比べてしまうもので先に行く妹は、ある意味では私の目の上のたんこぶでした。けれど、彼女は同時に私にとってありがたい存在でもありました。彼女が先にモーツァルトを弾いていたおかげで、音楽やメロディが取りやすかったり、彼女自身がアドバイスをくれたりして、助かったところがいくつもありました。力になったのは彼女だけではありません。教室に、私と同時期にモーツァルトを弾いている子がいて、長年一緒に習ってきた彼女達が上手に弾いているのを見ると、とてもやる気ができました。

メソードの良い所は皆が同じ教本の曲を弾いていくので、先輩や同じ曲を習っている子の演奏を聞いて、刺激を受けたりお互いに学びあって、皆で成長していけることだと思います。集団で成長していくのは、一人で成長するよりもずっと充実感と安心感があります。一緒に習ってきた仲間がいなかったら、私はモーツァルトを弾ききることはできなかったと思います。また私の「夢のモーツァルト録音」は母の支えがなければなしえませんでした。人の意見を素直に聞くことが得意ではない私は母がアドバイスをくれる度に反論して、「お母さんはバイオリン弾いてないから分からないでしょ。」と言って困らせたこともありました。けれど、反発ばかりしている私を母は最後まで支え続けてくれました。

そして何より、私をここまで導いて下さった林先生。音程が取れず、リズム感もない私がモーツァルトを録音できたのは林先生の音に対する厳しい姿勢と根気強いご指導のおかげです。先生とのレッスンは笑いあり、涙ありのレッスンでした。見当違いなことをして先生に苦笑されたことも、何度かありました。三楽章が弾けるようになれば、一楽章がダメになる。一楽章が良くなれば二楽章が悪くなる。そんな出口の見えない私の演奏を指導していくのは、骨の折れるものだったと思います。私が才能教育課程を卒業できたことで、少しは先生の肩の荷がおりていれば嬉しいです。小さい頃からここまでずっと指導して下さいました林先生への感謝の気持ちは、言葉では言い表せません。先生、本当にお世話になりました。

才能教育課程卒業というのは、一つの山の頂上だと思っています。ここまで上ってこれた自分に自信を持ち、支えて下さった方々への感謝の気持を持って、次の山の頂上である研究科卒業に向かって、私らしく、焦らずに、一歩ずつ進んでいきたいと思っています。

以上を以てお礼の言葉に代えさせていただきます。

お礼のこたば

卒業生保護者代表

「弦をするならスズキがいいよ」という友人の言葉に、スズキ・メソードのことを何も知らないまま見学させていただき、今日に至るまで本当に長い道のりでしたが、才能教育課程を卒業

できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

上の子中心の生活がまわっていたなか、娘とのバイオリンの時間は「二人だけの時間」で大切な時間、と思いながらも、ついしかって泣かせて、最後はすねて弾かない・・・という日が何回もありました。こんな風にお稽古がうまくいなくて悩んでいた頃に出席した卒業式は「あそこに立っているお母様方は泣きたくなるような時はなかったのかしら？私は娘とともにあの舞台に立てる日はくるのだろうか・・・」と涙ぐみながらみていた記憶があります。それが今日は娘とともに舞台に立つことができ、本当に嬉しく思っています。今は娘も大きくなり、本人まかせの練習で相変わらずお稽古の時間は短いのですが、続けてきたことによって、気がつけばこんな大曲が弾けるようになっていました。ゆっくりでも続けていたからこそ弾けるようになったモーツァルト。「続ける」ということの大切さを、今、本当に実感しています。

思い返すと、バイオリンを通して、本当にたくさんの時間を親子で過ごしてきました。楽しい時もあり、ケンカし続けた時もありましたが、この時間を培ってきたことにより、いつの頃からかしみじみと「バイオリンっていいよね」とか「何才になってもずーっとやめないよ」という娘の言葉を嬉しく思いながら、『愛に生きる』を読み、反省の日々であった私に、鈴木先生の「どの子も育つ」というお言葉が今、胸に響きます。

バイオリンを続けてきたからこそできる親子の会話、そしてスズキ・メソッドに入ったからこそ得られたすべてのことに感謝の気持ちを忘れず、いつかこの恩返しができるといいな、と思いながら、私も娘もこれからも成長していけたら、と思っています。

最後になりましたが、4才の時からずっと今日まで育ててくださった森山先生、そして緒先生方、お教室のお母様方、まわりの皆様、本当にありがとうございました。

